飯田高校同窓会報

第29号
発行人
長野県飯田高等学校同窓会長
松下逸雄
編集発行人
酒井育
印刷所
飯田共同印刷㈱

元年度定期総会開く

執行部全員留任

平成元年度の本会定期総会が八月二十日午後一時から、飯田高校本館一階の教室を会場として、役員・一般会員ら百二十人が参加し、全ての議事を原案どうり可決、役員改選でも引き続き留任が決定されました。

総会は坂副会長の開会の辞によって始まり、一分間の黙祷の後、会長挨拶があった。松下会長は「役員全員留任が前回の幹事・評議員会によって決まったので、与えられた二年間職責を全うしたい。本校の校舎も既に六十年の歳月が経ち、各所の傷みもひどいので、少しずつ改選でも引き続き留任が決定されました。」と、本館の修理では追いかなかれた幹事・評議員会の改築を運動したい。皆さん方のご協力を是非お願いしたいとあいさつ。

続いて畑谷学校長は、「明学校であった本校も戦後の男女共学化とともに年々女子生徒が増え、今では三分の一を占めるようになった。平成二年度に生徒数がピークとなり、その後生徒減となる。県下で初の教育関照別引継が松下会長などの尽力で実現できたので、生徒の質質の向上に努めたい」などあいさつがあった。

本年の記念講演として下高井郡の国史跡「会地陣屋」の歴史について、歴史研究家の倉地貞三氏に講演を依頼した。

前中中央役員会の決定を拍手で承認した。

議事終了後、会員で校歌斉唱して閉会となり、引き続き、会員の懇談会となった。

本館改築に向けてゴー

私は、去る八月二十日(日)午前十一時より、幹事・評議員会において、会長に推薦され、同日午後一時より定期総会の席において承認され、会長に決定いたしました。考えてみれば、私も七回目の会長に就任致したわけです。

この間に、私は、後輩が勉学や、体育に、又クラブ活動に、思う存分に励むことの出来る環境づくりに向って、校舎や体育施設の整備拡充に、努力致してまいりました。

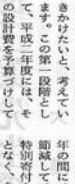
こうした整備拡充も、昭和六十三年度迄にて、ほぼ終了致しました。今後は、校舎の施設、校内の手入れ、補修工事や、改修工事になるのであります。

早速、県に働きかけて、年度内早期実施をお願いして既に三件とも、完成致しています。

次は、本館の管理、校舎のことでありますが、大正十四年の竣工して既に六十年余年が経過致しています。従って、最近は、各所に傷みもひどく、それぞれ改修工事を実施して来ました。特に屋上の雨洩は、なかなか防止出来なくて、幾回か繰りかえして来ました。

①第一グランドの整備（暗渠排水工事）
②プールの補修工事（内面をきれいする）
③南舗装の改修工事（廊下階段の床材替）

の三件が出て来ました。



ご挨拶

同窓会長　松下逸雄

この際全面改築した方がよいので、県に強力に働きかけたこと、考えていました。

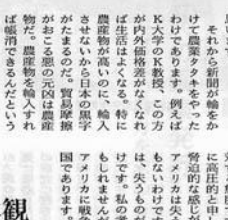
次に、前回同様、そして、平成二年度には、その設計費を予算づけしてもらわねばなりません。本年の予算編成の折に、県に持参致しました。

この際全面改築した方がよいので、県に強力に働きかけたこと、考えていました。

次に、前回同様、そして、平成二年度には、その設計費を予算づけしてもらわねばなりません。本年の予算編成の折に、県に持参致しました。

特別寄付金は募集することなく、会員皆様方の一人年額一、〇〇〇円の維持会費により、本会の維持運営とともに、この一、二〇〇余万円となりました。これからの二ヶ年の間に、無駄な経費は節減して、前回同様に、会員皆様方の御多幸を、心より祈り致しまして御挨拶とします。

最後になりましたが、会員皆様方の益々の御多幸を、心より祈り致しまして御挨拶とします。



記念講演

農業を通してみた私の日本観

中46回卒　倉地貞三氏

この二・三年各方面から農業タタキにあっていて、ひとつは、牛肉オレンジの自由化をめぐり一般に高い、外国から持ってくればもっと安くなる。そうすれば国民の生活はもっと豊かになるのではないか。こういう議論もあります。その中には米もひとつあります。

もうひとつは地価の高騰であります。都市の農地を解放しないからだと言いますが私から言わせるとクルートの何とかが滅茶苦茶なお金で買っていたためということもあるのでしょうし、銀行が融資をして業者に買いまくらせたせいだと思います。

それから新聞が輪をかけて農業タタキをやったわけであります。例えばK大学のK教授、この方が内外価格差がなくなれば生活はよくなる。特に農産物が高いのに、輸入されるから本の黒字がたまるのだ。貿易摩擦がおこり恩の元凶は農産物だ。農産物輸入すれば食糧消費できるんだという議論があります。

次に、アメリカの日本に対する態度ですが、非常に高圧的とします。

今、日本の農業の動きはどうか。

私のような者に話をせよということで光栄に思っています。私は1月前で話をすることは到底出来ません。かって弁論大会で大失敗したことがあります。しかし畑谷校長義理の恩義でもあるのの恥をしのんで出てしまいました。四十年間農業かかわってきました。

農業の視野がせまいかもしれません。まず飯田の商家の人と利害が一致するかどうか分かりませんが、お話ろう進めていきたいと思います。

農業タタキについて

アメリカの調査会社の東京支社において本を書いて儲けているのですが、土地高騰に関連して『大都市近郊の百キロ圏内の米作りをやめたら、今の宅地の地価は『ムーン』レベルに下がる』と書いています。

私はさっそく百キロ圏内の宅地化したらどうなるか。雨が降ったらどうなるか。今は水田で水を蓄えてくれてます。調時のうちにたくさん川に流れこんでいったらどうなるか。

体全体真面目にこんなことを言う人間があるのか。国民を馬鹿にするにも程があると思います。

学者の話はそれぞれくいて新聞にある農業タイトルであります。最近の新聞は、文化欄だけは進歩しています。新聞の見出しじゃないとなんにも書いています。ひとつぐらいは、農業家同様に新聞がでてきてもよいと思うのですが……。そうすると先なっています。アメリカはこうして考えがありません。それはいいます。もうひとつは、日本はあまりにも、弱勢、半端、体等々、輸出をやりすぎ。しかもアメリカは米を出が倒っている。西独などはバランスを考えて日本がどんどん輸出するとアメリカは、すぐ怒ってアメリカの製品は止まらない。昔の日本は、武器を作って平和のため武器を作って平和のため。今、今、平和な時代であり、武器はありますが、ていえばアメリカとは、たちうちできません。それは、ただ、むずかしいことです。国の経済規模を縮小してからは出直すことです。大変つまらない話でありました。この辺で終らせていただきます。

（倉地貞三氏の経歴）

倉地氏は昭和二十一年旧飯中四年卒、旧飯高二年卒、アメリカにも米について、ヨーロッパの場合でも、ドイツ、ベルギーの場合でも、政府が補償しています。

農業保護政策について

日本の農業は過保護であるという話はありません。

赤石山は巍々として！

校歌作詩者のルーツを探る

校歌作詩者青藍 福沢悦三郎先生のこと

大場　勉（元本校教諭 松川町在住）

本会報第二十三号（昭和五十八年十一月発行）へ「校歌碑建立の顛末」を発表したが、知人の勧めで郷土誌（伊那）にも補稿して投稿した。この読者から反響を頂いたのでその後の調査結果を、返信として同誌に発表したが、同誌購読者以外の卒業生も居られると思うので、敢て本会誌に寄稿させて頂く。

（福沢青藍氏）

一、戦前の飯田伊地方

小学校の校歌と周辺

戦前飯伊地方には五十五校あったが、そのうち校歌のある小学校は、浅井洌、信濃毎日新聞社、作詩者青藍氏の記事を拝見しました。山口吹、鵜、追手町、丸山、松尾、上久堅、大下条、富草、泰阜北、同南、伊賀良、伍和の十一校。

（福沢青藍（飯田中校歌論）

作が、伊賀良、山本、川路、伍和の四校、井上武士（長野師範教諭）が大下条、下久堅の三校。福沢青藍が伊賀良、山本、三穂、長谷部巳津次郎（飯田高女教諭）が泰阜北、平岡、龍本の三校だった。

この福沢青藍は山村誌によれば、飯中校歌は昭和三年八月同校の教諭として赴任し、翌年作詞した。

福沢先生は、昭和三十年に校歌が難かしいという事で二校の校歌を作られました。同校の校歌は明治四十三年に福沢先生が作られました。

（福沢青藍（飯中校歌）

昨年「伊那」で福沢先生の記事を拝見しました。実は上松小学校の校歌は、昭和三十年に校歌が難かしいという事で二校の校歌を作られました。同校の校歌は、北原狐山作、門横沢第一、第二両方の西筑摩郡駒ヶ根小学校歌、明治鉱山作、上郷、下清内路、他に下条、浪合、平岡、向方、下久堅、千代、生田東、上清内路などにあった。

作曲者は不明の学校が多いが井出茂太（飯中校歌作曲者）が鵜、丸山、川路、伍和の四校、井上武士（長野師範教諭）が大下条、下久堅の三校。福沢青藍が伊賀良、三穂、長谷部巳津次郎（飯田高女教諭）が泰阜北、平岡、龍本の三校。

この福沢青藍は山村誌によれば、飯中校歌は昭和三年八月同校の教諭として赴任し、翌年作詞した。

福沢悦三郎が作詞した。

福沢は明治十七年伊那町に生まれ、東京高師を卒業し明治三十九年から大正二年まで飯田に在住し、同学校教諭であり、号を青藍と称した。歌は伊那谷青年の間に広く愛唱されたが、昭和二十二年頃都に於て歿した。

二、木曽の山下氏より

前略　福沢先生のことについて次のことが判りました。木曽福島小学校の旧職員履歴書綴りの中に木曽出身のものがありました。

履歴書

伊那町　平民

福沢悦三郎

明治30・4・26

長野県尋常師範学校卒

同年同月同日

西筑摩郡駒ヶ根尋常高等小学校校訓導に任ぜられ月俸参円

明治31・1

休職を命ぜられる

明治32・2

西筑摩郡日義尋常小学校訓導に任ぜられ月俸拾五円

明治33・4・1

西筑摩郡福島尋常高等小学校校訓導に任ぜられ月俸拾五円

明治33・5

福沢悦三郎

右の通りに候也

明治35年

三年生に入り、論理学・心理学・社会学・倫理学などを修めた。ところがこれと重複して三十八年四年に入り、三十九年同科卒とある。同時に二校に学んだ訳だ。このことについて東大卒の武藤義人武蔵大学教授に調査を依頼した処、次の回答があった。

五、武藤義人氏の回答信

前略　明治三十年代の東京選科生が在籍し得た期間は、師範学校卒業後の調査を依頼した処、次の回答があった。

飯田高校と歌碑建立の際、飯中校歌作詞者福沢先生に教えを受けた幾人かの大先輩の感想として「その独特な高格、純粋無垢な人格人柄は徒を魅了し、脳裏に強く焼いている」とのことだった。

六、県教育界を去る

飯田中学勤務のあと、松本尋常師範（付属小学校主事兼務）に勤務して長野師範に移り、北原長野師範を去ったが、北原名田郡氏によると「幸徳事件の折、秋水の獄中の詩を教室で朗々と吟じた」との事で、先生は辞職された。法名は極楽院釋泰悦居士という。

七、結び

飯田高校校歌の創作には「南信雄児の歌」や「赤石山は巍々として」の作詞者として、飯田高校から上京した竹入先生、上農同窓会報で「飯田高校の校歌ほど素晴らしい校歌は他にない」と絶賛の言葉を寄せられた。

七十五歳で京都で亡くなり、松本市信ヶ崎の市営墓地の福沢家の墓所に眠られた。法名は極楽院釋泰悦居士という。

八、結び

飯田高校校歌の作詞者は、郷土誌（伊那）に補稿して投稿した。この読者から反響を頂いたのでその後の調査結果を、返信として同誌に発表したが、同誌購読者以外の卒業生も居られると思うので、敢て本会誌に寄稿させて頂く。

福沢悦三郎先生の墓

飯田中の先生仲間に岡田邦松先生（上郷町出身）がいて、この長男が上松町で写真屋さんをしていましたが、もう亡くなりました。

木曽上松町小脇六二

山下五月六拝

前略　福沢先生の調査については、木曽福島小学校の職員履歴書綴りの中の明治三十四年検定試験により、師範学校卒業の事は論証せず、翌三十五年四月東京高師に入学され、同三十八年選科卒業し更に国語・漢文研究科へ進んだ。更に筑くこと三年間、明治三十五年十月から同三十八年十二月まで、東京帝国大学文科哲学科に在籍者を除くという条項は現在は規則になっていると思います。

昭和三十年に校歌碑が建立されました。この碑の裏面に作詞者の氏名が刻まれていて、碑の前に立って、ふと、この碑の作詞者は誰が判りませんが、作曲は誰だと思います。先生は同校訓導として明治三十年から三十一年の一年間在職し、あと何処かに転じ、あと何処かに四年いて飯中学に赴任したと思います。

先生は規則にないと思います。事実上不可能だから二重の学籍を持たないと思います。

九月一十三日

福沢先生が東大選科に居られた明治三十七年頃、学んだ訳だ。このことについて東大卒の武藤義人武蔵大学教授に調査を依頼した処、次の回答があった。

五、武藤義人氏の回答信

前略　明治三十年代の東京選科生が在籍し得た期間は、師範学校卒業後の調査を依頼した処、次の回答があった。

飯田高校と歌碑建立の際、飯中校歌作詞者福沢先生に教えを受けた幾人かの大先輩の感想として「その独特な高格、純粋無垢な人格人柄は徒を魅了し、脳裏に強く焼いている」とのことだった。

六、県教育界を去る

飯田中学勤務のあと、松本尋常師範（付属小学校主事兼務）に勤務して長野師範に移り、北原長野師範を去ったが、北原名田郡氏によると「幸徳事件の折、秋水の獄中の詩を教室で朗々と吟じた」との事で、先生は辞職された。法名は極楽院釋泰悦居士という。

七、結び

飯田高校校歌の創作には「南信雄児の歌」や「赤石山は巍々として」の作詞者として、飯田高校から上京した竹入先生、上農同窓会報で「飯田高校の校歌ほど素晴らしい校歌は他にない」と絶賛の言葉を寄せられた。

七十五歳で京都で亡くなり、松本市信ヶ崎の市営墓地の福沢家の墓所に眠られた。法名は極楽院釋泰悦居士という。

八

開発と保護

高2回　山田哲雄

松本文部近畿事務所は平成元年五月二十日（土）午後六時より、松本市大手二、信州会館にて開催、会員講演として高二回山田哲雄氏による「開発と保護」を聞く。

保護の対象

人類は豊かな暮らしと便利な生活を求めていろいろな開発をしてきました。然しそれら多くの開発と保護という言葉は破壊を伴います。

開発と保護という言葉があるいは概念が対峙して使われますが、保護の対象は森林というような自然物ばかりでなく、地球規模の環境までが文化にまで拡がっています。また破壊は物質化学的な方法だけでなく、経済的（機構的）にも文化的にも行われており、しかも、それらは今や限界に達しているという状況を呈しています。

長野県内の幾つか町村の開発は、ほとんど、生態系の完全復帰などなかったかのごとく、フロンガスによるオゾン破壊の警告が出ない、九七四年頃迄続いた。以来、五年間先進国を中心に世界の年間フロンガス生産量の半分、九七五年頃迄は、中高緯度地域で損失三～四度気温上昇し、極地の氷が溶けて海水面一メートル上昇する警告はなかった。炭酸ガスの温室効果によって、地球の温暖化が起こるまで進めば、二一世紀の中頃には中高緯度地域で損失三～四度気温上昇し、極地の氷が溶けて海水面一メートル上昇する警告はなかった。炭酸ガスを同化する森林破壊はますます、途上国の経済発展のための大量の伐採が進むばかりである。南極のオゾンホールが有名ですが、北欧の上空にも、ヨーロッパ諸国の酸性雨による森林の枯死が問題になっています。南極のオゾンホールが有名ですが、北欧の上空にもあるというので、ヨーロッパ諸国とアメリカ、ソ連などが、ようやく、ガスの使用を禁止する法律を作ったとのことです。日本は

支部だより

東京

昭和六十三年度在京同窓会総会は、十一月一日アルカディア市ヶ谷（旧私学会館）において来賓四出席者に恵まれ、会員八十三名、計百六十七名出席もとに盛大に開催された。

来賓として飯田高校畑谷智雄（中46）校長、同副会長が出席され、母校の諸施設、クラブ活動、進学状況等の近況報告があり、又講師として講師の寺田栄先生、英語の秋山平吾先生が元気な姿をみせて下さいました。

総会は大会長（中22）の挨拶及び来賓各位への謝辞があり続いて幹事より経過報告、会計報告があり特に維持会費について、「ぜひ一人でも多く入会して欲しい」と、強く興味深い問題について明解な論旨を以て解り易く説明して下さった。

満場の大拍手を浴びました。

懇親会は会場隣接ステーブルを設け、先輩後輩が大いに交流を保ち、時の経つのも忘れる楽しい集いでした。

次回は本年十一月十日（金）同じ場所で開催する事が決まりました。

（中47野原福一記）

中京

中京支部総会は平成元年度総会盛況の上、開催来年度は下伊那地区4校で共同懇親会、予定通り平成元年三月四日（土）に名古屋郵便貯金会館で開催されました。

〃　中島人事　中27
〃　笹川秀郎　中28
副〃　伊原助明　中32

竜丘

私達は親睦と交流を主目的として、毎年、一泊二日の日帰りバス旅行を行なっております。

順　問　清水文美　中19
〃　中島人事　中27
〃　笹川秀郎　中28
副〃　伊原助明　中32

竜江

三月四日（土）吹き降りの悪天候であったが、竜峡亭に於て平成元年度支部総会を開催、会員九十名のところ二十名の出席を得た。

本年度も役員改選の年にあたったが、役員留任と決定、各区に二名の幹事を一名ずつ増員、事務処理の円滑化と規約改正、また新たに慶弔規約も作成した。

更に総会の持ちかたについて活発な話し合がもいて活発活況と合がもいて、自分達の生活の場である竜江地区をもっと知る必要があるという意見が出され、次の総会から全員が出席される事を入って居ります。

松本

当支部は昭和五十一年十二月の設立総会から数えて十四回目、連続として毎年総会を持ち、平成元年5月20日（土）信州十四回目、連続として毎年総会を持ち、平成元年5月20日（土）信州十四回目、連続として毎年総会を持ち、平成元年5月20日（土）信州十四回目、連続として毎年総会を持ち、平成元年5月20日（土）信州

今回は、この支部設立発起されて以来25の新井芳夫、大田男、中谷四郎兄ら大活性化に役立ったと考え、その第一回として「開発と保護」と題して問題提起され、二十名の参加者だけが聞くには勿体ないところ、「開発と保護」という表題の下に、毎月一回、「信州の新聞」に連載されている「ケンケンがくがく」と題して、本職の講演と、「メス用」の講演あと、同氏の友人である前東京国税局管理課長で、現役理士北島孝安氏が「情報の収集と活用」と題して、税務

5、東大合格、留年後、名などの報告があり、続いて本会幹事局長、羽生英鳥先輩から同窓会の近況報告あり。
1、八月二十日、本会同窓会総会。
2、会員名簿の積立　二〇〇万円準備できる。
3、正副会長、五名留任（前どおり）。
4、年会費　一人千円（従前どおり）。
5、11／1同窓会報発行予定
来賓挨拶、同窓会近況報告、講演、講師阿島の原五郎先生（中37）演題、「義木村の石神佛について」内容は、石神佛とは少しニュアンスが異いので、野ぼけ――の方が聞きやすかも知れない。
1、義木村に現在する野ぼとけの数、771体。
2、如来と善薩の逸い。
3、善薩――33化身中心的なもの　観音様（※安時代）
4、聖（正）観音――化身
5、千手観音、如意輪観音、十一面観音に昔の面影のあるものなど……
6、義木村の民俗宗教、薬師（日光、月光）菩薩、実に興味深い話を聞けて何ず記録にも残せ良かったのにと、後悔して遅しの感。
7、聖観音――化身
8、千手観音、如意輪観音、十一面観音に昔の面影のあるものなど……
9、義木村の民俗宗教、薬師（日光、月光）菩薩、実に興味深い話を聞けて何ず記録にも残せ良かったのにと、後悔して遅しの感。

関西

平成元年九月十五日（敬老の日）関西支部連合会第二十二回総会が神戸神仙山で開催された。ここ神仙山は西濃川神社には飯田藩密贈の灯籠があり、東会員近くの信州出の城土垣石見守が神戸の海岸警備で出張納しと伝える」と記された「八幡」が境内に建てられ、飯田とは古くから交流があったと思われる。さて前日の台風による大雨も上り、同窓会本部は母校より畑谷智雄校長（中46）、教頭金原良（中43）、高安健之副会長（中42）、中村文夫君（中47）が残念ながら都合により不参、代って前田口篤夫君（中47の又名）が参加、会長の挨拶、来賓の紹介、会則の審議、神戸での人校、代って前田口篤夫君（中47の又名

移して祝賀会開催。鈴木恒長君の開会の辞、木庄委員長の開会のあいさつ、小島長の経過報告の中学時代の思い出を話され、先生のお祝辞に感激なさる一幕があった。次いで祖母校長先生、次校長の挨拶があり、全員の一斉に乾杯。次に、二人の方の祝辞があり、お盆が終った八月十九日、千登勢にて開かれた。

本庄芳英、北林只一、谷操、北原卓夫、北原勇、大沢宏生の方々へ敬意を表した。

前は戦争に明け暮れ、日本復興のために、今日の日本経済繁栄の大会は、小島隆司の下、三人、本田長、三人会々計となった岩島君より、先般行なわれた記念大会の感謝報告があり、次に、三人の方の祝辞があり、三人会々長、小島隆司の下、三人

学園だより

第34回高松祭終了

飯高生徒会最大の行事、「高松祭」が去る七月十二日(前夜祭)(金)・十五日(土)・十六日(日)・十七日(月)に実施された。今回のテーマは「夢も出てくる三次元ポケット」

十四日、開祭前夜祭ということで毎年恒例の出店、模擬店が校庭で展示し、例年より充実したものとなった。また、例年通りの三日間を表すトラブルで三時間遅れるというお馴染みのハプニングに悩まされながらも、十五日、十六日、十七日の三日間、例年と同様に、多数の参加人数を大きく上回る人数が参加した。

四人の鏡男子の熱闘によって幕が切って落とされた34回目の高松祭。午前中はクラス対抗の音楽会が行われ、北体育館の美しい歌声を聴かせた。午後は一般公開という事で、来客の展示や催し物、中庭では特設ステージで高松コンテストが行われた。祭の二日目の十六日この日は日曜日という事で丸一日一般公開であった。雨天であったにもかかわらず、多勢の一般客が訪れ、展示や催し物を楽しまれた。中でも化学班は四人の鏡男子と成功した手製セラミックによる超電導の実験を披露した。また天文班では今年で三十周年を迎えたということで三年生の歩みや、流星の観測記録を模型を使って展示し、例年より充実した内容であった。他のクラスもそれぞれ工夫をこらし例年より充実し、また楽しい展示となった。十五日には校庭、十六日は南体育館で行われたフォークダンスも、例年の倍以上もの参加人数を大きく上回り、午前中は、昨年は、講演会をとりやめ、対話行われ、北体育館の美しい歌声を聴かせた。午後は一般公開という事で、来客の展示や催し物、中庭では特設ステージで高松コンテストが行われた。祭の二日目の十六日この日は日曜日という事で丸一日一般公開であった。雨天であったにもかかわらず、多勢の一般客が訪れ、展示や催し物を楽しまれた。中でも化学班は四人の鏡男子と成功した手製セラミックによる超電導の実験を披露した。また天文班では今年で三十周年を迎えたということで三年生の歩みや、流星の観測記録を模型を使って展示し、例年より充実した内容であった。他のクラスもそれぞれ工夫をこらし例年より充実し、また楽しい展示となった。十五日には校庭、十六日は南体育館で行われたフォークダンスも、例年の倍以上もの参加人数を大きく上回る人数が参加した。

今回のテーマを知って変なテーマだと首をかしげる方は少なくはないだろう。今回の高松祭は文化的で理知的な色合いが強くイメージされた。ムードを盛り上げるためにテーマから受ける方もいらっしゃるかもしれません。そんなテーマから受ける方もいらっしゃるかもしれません。そんなことはなかった。しかし、展示等もより高度なものへと変化していった。自分分に積極的に行動をとれる行事も生徒達。

2年生の講座に分かれて20はこの講座に分かれて話し合ったり、体を使う事をたどりする会を行った。内容も幅広く、政治問題・原発から、みんなが楽しめるゲームをしたりするものとそれぞれに充実したものとなった。

午前中は、午後は、

音楽会

来年の高松祭へ

2E　沢柳　幸弘

来年、僕らが高松祭を受け継ぐにあたって、自分なりに今年度の高松祭をふり返って見たいと思います。

まず、前夜祭で、今年は時間が遅れてしまったわけですが、それでも、次の日からの高松祭をやる気にさせるような、前夜祭で燃え尽きてしまうのではなく、そこで次の日からの高松祭を乗り切るためのpreを付けてもらえるようなものにしたいものです。次の日から、開祭式、特別ステージなどより、3日間運動会を行う事で、競争や団体対抗ドッジリレー等は自無したものとなった。

そして後夜祭、スイカが当たるラッキーナンバーが当たるというのは、今年の中盤からルーレットでの抽選がおわれた。そしてクラス対抗の盛り上がりはすごかった。

今年は、ムードが必要で、校庭で行うのはもう、つものたりないと思うのでフォークダンスを行うのはもう、つものたりないと思うのでいろいろなアイテムをつけて、ムードを盛り上げられるようなものを考えています。その後、後夜祭、ファイヤーストームもありました。ファイヤーストームでは、みんなが完全燃焼できるよう気がイまく調和はとれたと思います。

とにかく、高松祭は前夜祭で、みんなで盛り上げるものです。3日お祭りからしい楽しい雰囲気が素晴らしい高松祭であった。

第34回高松祭その軌跡と足跡

金属　3F　青川　徹

一年間の自治活動の中でやはり中心となるのは高松祭である。高松祭は今年、昨年度末でとは少し違った捉え方で行なわれた面があるが、一年間、次の1学期から高松祭をやはり捉えた方で行なわれた。今年の

変貌する母校

整ってきた中庭

改築なった班室
左からテニス、水泳、ラグビー、バスケット、バレー、弓道、剣道の班室

寄贈品紹介

同窓会へ今年度寄贈された書籍は次の通りです。（　）内は寄贈していただいた方です。

「アジアに生きる大東亜戦争」（有隣会社・展転社）
「こけつまろびつ」（平松　桐・中42）
「古稀記念文集」（田中南陵・中33）
「伊那谷山村の変貌」（三浦　宏・中40）
「平和、自由主義」（横田宇弘・高29）
「神神永久に・わが青春の賦」（馬場　滋・中40）
「ドイツ政治史研究心酒」（西尾孝明・中43）
「読書の広場」（西尾孝明・中43）
「激動の半世紀」（公沢　潤・中38）
「ふるさと写真館飯田」（山本今朝秀）
「わが青春と50年の回想」（本庄芳美・中37）
「車社会その弥縫者たち」（佐々木烈）
「街道筋に生きた男たち」（佐々木烈）
「ドイツ社会主義研究」（西尾孝明・中43）
「砂川・私の戦争史」（宮沢千章・中26）
「老後のあけくれ」（宮沢千章・中26）
「長沼静人句集笈舎抄」（今村周己・中38）
「卒業25周年記念誌」（林　緑・中27）
「ふるさと」（高16回生）

事務局だより

(一) 会員名簿について

(1) 松下同窓会長のご挨拶にあります通り、また、昨年の「事務局だより」にてご連絡致しましたように、「会員名簿」の改訂発行と、無償配布が、明平成二年十一月上、一年後に迫ってまいりました。

名簿作製の主眼は、前回同様でありますが、同封の「名簿作製について」の確認のお願い文を良く読んで、お間違いのないよう、会員一人一人の御協力を、切にお願い致します。

(2) 同窓会報にて、毎回御連絡致しています通り、維持会費を、昭和五十九年度迄完納した上で、六十年度から平成元年度（昭和六十四年度）迄の五ヶ年分を納入された会員にのみ、無償にて配布することが原則になっています。同封の納入明細書を、良く吟味の上、未納のないようにお願い致します。

(3) 在学中に、一括五、〇〇〇円納入された方、又は、五十五年から五ヶ年分を納入された方は、次の通りに、五ヶ年分納入されています。

(イ) 高校二八回生
(ロ) 高校二九回生
(ハ) 高校三〇回生
(ニ) 高校三一回生
(ホ) 高校三二回生

(4) 前回の名簿発行時に、〇〇〇円以上納入されて、前回の名簿（六四〇回生）までの会員で、夫々五、〇〇〇円納入されて、前回の名簿発行時に、〇〇〇円以上納入されて、六ヶ月分納入済みとなっている会員は、四ヶ年分で済ます。

(イ) 高校二八回生
六一年から平成二年迄
(ロ) 高校二九回生
平成五年から平成三年迄
(ハ) 高校三〇回生
六二年から平成三年迄
(ニ) 高校三一回生
六三年から平成三年迄
(ホ) 高校三二回生
六四年から平成三年迄

(5) 高校四十一回生（平成元年卒）以降の会員は、次の通りに、配布があります。

(イ) 高校三三回生
平成六年より九年迄
(ロ) 高校三四回生
平成七年より八年迄
(ハ) 高校四〇回生
平成四年より九年迄
(ニ) 高校四一回生
平成三年より七年迄
(ホ) 高校四四回生
平成元年より五年迄

(6) 高校三四回生以降の会員は、次の通りに五ヶ年分納入して下さい。

(イ) 高校三八回生
平成三年より七年迄
(ロ) 高校三九回生
平成四年より八年迄
(ハ) 高校四〇回生
平成五年より九年迄
(ニ) 高校四一回生
平成六年から九年迄
(ホ) 高校四四回生
平成元年から五年迄

(7) 高校四十一回生（平成元年卒）以降の会員は、次の通りに、配布があります。この場合は、一枚の振替用紙で一括用出来ます。この場合は、その他金額の手数料が安くなりますので、出来る限り、一括、送金される様お願い致します。

(イ) 高校三九回生
平成四年から八年迄
(ロ) 高校四〇回生
平成五年から九年迄
(ハ) 高校四一回生
平成六年から九年迄
(ニ) 高校四四回生
平成元年から五年迄

(二) 維持会費払込みの振替用紙について

(1) 払込みの氏名欄、又は通信欄には、必ず本人氏名と、卒業回数を記入して下さい。会員中には、同姓、同名が非常に多いので、卒業回数の記入のない、同姓同名の会員には、整理に多くの手数と、余分な通信費をかけなければならないのであります。

(2) 一戸で二名以上の会員が、送金される場合には、一枚の振替用紙で用出来ます。この場合は、その他金額の手数料が安くなりますので、出来るだけこの方法で送金して下さい。

羽生事務局長

会員訃報

御冥福をお祈りします。

中5回松下郁造6.12.26
中15回小林三雄63.1.20
中15回村沢重夫1.4.10
中16回高橋以一1.2.14
中18回佐藤英治63.4.15
中19回佐藤英治63.4.15
中22回矢鳥勝俊1.1.16
中23回遠山実63.12.11
中23回中平義之63.12.28
中24回図野義男61.1.5
中24回宮沢治一63.1.1
中24回早苗亮雄1.1.4
中24回大沢実1.5.9
中25回唐木薫63.1.5
中25回吉沢圭三63.12.12
中25回久保田鞍秋1.4.23
中26回小泉哲夫63.1.8
中27回岡田実1.1.22
中27宮沢忠男1.4.30
中31回橋爪保夫63.1.11
中31回牧田士次郎1.2.24
中31大崎恵正1.3.18
中33北沢慶夏62.9.3
中33回前沢五雄63.10.3
中34吉川純長1.9.14
中35回小林賢一郎
中35回中塚美智64.1.5
中36回宮島政人1.5.5
中37回吉川敦士63.11.16
中39回高木春男1.7.10
中39回北原周文1.4.30
中40回田賀1.4.16
中42回平田孝夫1.1.11
中42回関島利蔵1.2.22
中43回宮沢大1.5.12
中44回林桂1.6.10
中47回森山健63.8.7
中47回小森義63.6.13
中48回田口友美63.11.4
高3回山口英63.11.24
高12回島洋1.5.7
高32回小原啓1.5.7
高35回大蔵秀史63.10.10
高37福田美幸63.9.22
中44回林桂1.6.10
中47回森山健63.8.7
中47回小森義63.6.13
中48回田口友美63.11.4
高3回山口英63.11.24
高12回島洋1.5.7
高32回小原啓1.5.7
高35回大蔵秀史63.10.10
高37福田美幸63.9.22

卒業生進路情報

新入試制度（受験機会の複雑化・共通一次試験科目の削減等）になって、3回目の国公立の入試も終わった。合格ラインは昨年同様で難しいことに変わりなかった。ただ、事後出願になったことにより、慎重かつ堅実な二次出願ができるようになり、本校では国公立大合格者数は横ばいのまずまずの成績であった。しかし、私大の現役生の合格者数は昨年に比べ1桁上昇で大変よい結果を生んだ。本校の現役生は私大一本槍でなく、国公立大へもちょっと目を向けることが課題となろう。

大学名	現	卒
国公立大		
北海道大		1
東北大	1	2
山形大	1	
茨城大	1	4
筑波大	1	1
宇都宮大		1
群馬大	1	2
埼玉大	1	2
千葉大	6	3
東京大		2
東京外大		1
東京学芸大	1	1
東京農工大		2
東京芸術大		1
電通大		1
お茶の水大		1
横浜国大	3	4
上越教育大	2	
新潟大	6	6
山梨大	2	3
信州大	12	8
富山大	1	6
金沢大	2	3
富山医薬大	2	1
岐阜大	2	3
福井大		1
静岡大	7	3
名古屋大	1	1
名工大		1
愛知教育大		1
三重大	2	1
大阪大	1	1
大阪教育大		1
鳥取大	1	1
島根大	1	1
広島大	1	1
香川医大		1
国立大計	57	76
公立大		
群馬県女大	1	1
高崎経済大	2	2
都立大		1
横浜市大	1	2
愛知県立大	1	1
都留文科大	4	
静岡県立大	1	
大阪市大		1
大阪府大		1
九州歯科大		1
北九州大		1
公立大計	11	11

大学名	現	卒
私立大		
青山学院大	6	4
学習院大	3	2
津田塾大	1	1
神奈川大	5	4
慶応大	4	3
工学院大		3
国学院大	4	5
国際基督教大		1
駒沢大	2	4
芝浦工大		4
上智大	1	1
成蹊大	1	1
東京女子大	4	6
専修大	6	5
東文化大	11	7
千葉工大	2	5
中央大	1	8
東海大	2	4
東京経済大	3	2
東京電機大	3	7
東京理科大	4	16
東洋大	8	7
独協大	2	4
明治学院大	2	4
法政大	4	6
武蔵工大		1
立教大	7	4
早稲田大	2	8
金沢工大	1	2
愛知学院大	1	
中京大	6	5
日本福祉大	2	3
近畿大		1
名城大	3	4
南山大	3	1
同都産大	1	3
同志社大	1	3
立命館大	4	7
関西大	1	1
その他	63	54
私立大計	204	226
短大・各種学校		
国公立短大	19	
私立短大	43	
各種学校	35	
就職		
県内	12	
県外	3	
計	15	

編集委員

本号は次の委員が編集に当り掌りました。

・同窓会より
酒井　寛（中47）
平沢秀則（高4）
安達謙一（高7）
今村祥平（高8）
伊藤公平（高11）
・校内より
後藤武己（中46）
小林博者（高8）
知久浩行（高9）
滝沢昭彦（高18）
吉沢　章（高19）

編集後記

激動の昭和もすっかり過去となり、平成元年第一号は国を重ねて同窓会報二十九号を発行することが出来ました。酷しい残暑の中、編集は酒井寛委員長、羽生事務局長を中心に順調に作業は進んだ。年々、同窓会報に対する関心度の高まりは誠に喜ばしい限りです。

寄せられるたくさんの原稿を見る中で、学年会だよりに見られては、熱心に校報として下さるのは限られたごく一部の中学卒の先輩の方々が多く、高校卒の学年会だよりが少ない。同窓会総会の出席メンバー と同様に高校同窓会だよりに力点が置かれている。

各回毎の幹事、評議員がリーダシップを上って頂きたい。ご意見、ご要望など、どしどし寄せて下さいますようお願い申し上げます。